

公益社団法人 地盤工学会関東支部



Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

幹事長就任のご挨拶

グループの活動を活かしたボトムアップの支部活動へ

幹事長・清木 隆文
(宇都宮大学)

2025年の4月から、関東支部の幹事長に就任しました清木(せいき)隆文です。どうぞ宜しくお願いいたします。これまで、地盤工学会関東支部では、主に栃木県グループで活動をさせて頂いておりました。またこの他に支部発表会グループ、研究委員会グループなどの一員などとしても関東支部の活動に関わらせて頂いて来ました。この度、桑野玲子先生の後任として幹事長に就任させて頂くにあたり、これまでのそれぞれのグループの活動を下支えさせて頂いた経験をもとに、皆さまの力をお借りしながら、会員や学会に関わりのある方々と身の丈にあった範囲で会員サービスを充実させるとともに、効果的な支部の活動を活発にできないかと考えております。これまで、最も深く関わらせて頂いて来ましたが、栃木県グループの活動です。栃木県グループは、県グループを創設して育てて来られた方々のおかげで、産官学からの委員の協力関係のバランスが良いと考えております。その結果、それぞれの立場から現場見学会や勉強会、コロナ後にはなかなか開催出来ていない講演会を企画し運営して来ました。栃木県県土整備部から参与として県土整備部長に参加して頂くとともに、県土整備部から幹事や委員を派遣して頂き、主体的に現場見学会の国土交通省からは、宇都宮国道事務所、また自治体からは、宇都宮市をはじめとする県内自治体からの委員や幹事として参画して頂いて来ました。これに加えてライフラインの関係機関、地盤、地質関係のコンサルタントや建築振家事務所の方々に加え博物館の研究員にも、委員や幹事として携わって頂いております。ただ一方で、若手の委員の確保が課題で、世代交代が難しいとことがあります。他の県グループも同様の課題を抱えて居られるのではないかと思います。関東支部全体を見渡しますと、豊富な人材があり、本務が忙しい中で、なかなか支部活動への参加が難しいのかもしれませんが、若手の人材も多数在籍されて居るとともに、経験豊かなシニア人材も多く居られます。それぞれの立場の方々の立ち位置を大切にしつつ、少しでも学会活動



に関わって頂き、支部活動を盛り上げていただける様な仕組みづくりができればと思います。まずはこのために、多くの方に地盤工学会や地盤工学の魅力を知って頂き、学会活動に参加することが会員それぞれの本務に類する位大切な活動と位置付けていただくことが必要と考えます。また昨今、頻発する地盤災害への原因調査や対策に対しに深く関わっている学会であることについて、情報発信をすることができればと思います。そのためには、できるだけ多くの方に学会活動に関わって頂く機会を設け、その中で、さらに深く関わって頂くことができそうな方については、支部活動の中核をどんどん担って頂くことが出来ればとも考えます。そこから各分野の方々にきめ細かな情報発信ができればと考えます。現状として支部事務局の青木様が活動の要(かなめ)として、微に入り細に入りしっかりと各活動をしっかりと管理し、サポートをさせていただいておりますが、他支部に比べて、会員数も桁違いに多いこともありますので、各グループが自律して運営ができればとも考えます。例えば、県グループでは、その規模は小さいかもしれませんが、企画、運営、会計処理を一気通貫で行って居ますので、支部内の各イベントも一気通貫で運営を行い、収支と実施報告だけを支部にあげることも可能なのではないかと考えます。これはあくまでも私案ですが、各グループでできることはそれぞれのグループで行い、人手が足りない様であれば、若手、シニアの方にも委員などにどんどん参画して頂き、会員による会員のための会員サービスを自ら行い、関わって頂く多くの方々からのアイデアを結集して新たな活動を生み出すことができればと思います。これらの各グループの活動を積み上げることによって、関東支部の活動をさらに活発にできればとも考えます。一方で、学会活動が各会員の本務にも成果として評価や反映して頂く様なことも期待されるかと思います。人材豊富な関東支部で、個人の負担を減らしつつできるだけ多くの方々の力をお借りし、皆さまにご指導を頂きながら、微力ながら支部活動を盛り上げて頂きたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

国際ワークショップ「GAIA Workshop」開催報告

関東支部 茨城県グループ
リーダー・松島 亘志（筑波大学）

GAIA とは Geomechanics Alliance In Asia(アジアにおける地盤力学の国際連携)の名称です。近年の地球温暖化に伴って急増している斜面災害や堤防被害、巨大地震による液状化被害、トンネルや管路の老朽化による地盤陥没被害など、世界中で問題となっている地盤工学の諸問題に取り組む、特にアジア圏の若手研究者のネットワーク形成を支援するために、2024 年度に有志の研究者で立ち上げました。

本ワークショップは、その GAIA の第 1 回国際ワークショップとして、2025 年 2 月 22 日～24 日の 3 日間にわたって、65 名の参加者を集めて開催されました。熱海市の伊豆山研修センターにて 3 日間にわたり寝食を共にする合宿型ワークショップとして開催し、若手研究者による 30 件の口頭発表および 10 件のポスター発表、そしてグルノーブル・アルプ大学の Viggiani 教授および浙江大学の Yang 教授によるキーノートレクチャーも行われました。毎夕食後には懇親会が行われ、参加者は遅くまで楽しく交流していました。ワークショップの最後には、参加者の投票による 4 名のベストプレゼンテーション賞および 2 名のベストポスター賞の表彰も行われました。参加者からも好評を博し、次回も参加したいという声が多く寄せられました。第 2 回は 2026 年 3 月に山東大学にて行われることが決まっています。GAIA の詳細は、以下のホームページをご覧ください。

https://www.kz.tsukuba.ac.jp/~tmatsu/GAIA_homepage/index.html

最後になりましたが、地盤工学会関東支部には共催組織のひとつとして本ワークショップの開催をサポートしていただきました。ありがとうございました。



特別講演会「マダム、これが俺たちのメトロだ」開催報告

関東支部 企画総務グループ

副幹事長 川野 健一（鹿島建設(株)）

地盤工学会関東支部では、毎年、関東支部総会に合わせて特別講演会を実施している。令和7年度は特別講演会「マダム、これが俺たちのメトロだ」と題して、株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル執行役員・インド現地法人取締役会長 阿部玲子氏を講師としてお招きし、令和7年4月22日（火）16時30分から17時30分まで地盤工学会地下会議室とZoomウェビナーを併用した講演会を開催した。地盤工学会地下会議室で65名、オンラインで71名、合計136名が参加した。

インド国では、近年、目覚ましい発展を遂げており、その一例として、円借款で大型鉄道案件であるインド国デリーメトロの紹介、ならびに海外におけるコンサルタントの役割に関してご講演をいただいた。インフラ事業がその国の文化、生活、習慣に及ぼす影響から始まり、発展途上国での安全をないがしろにする傾向について語られた。その中でも、デリーメトロの工事現場を題材に、日本の産官学が協同で実施した安全向上プロジェクトが主な話題であった。識字率が低いインド国で安全文化を浸透

させることは容易ではなく、同氏の安全教育に対する熱い思いがなければ安全管理ができなかったことが良く理解できた。また、計測対象物の変化を光で視認できるようにし、安全を視覚化する方法は大変効果的な方法であった。講演後は活発な質疑応答があり、会員からの関心の高さがうかがわれた。図-1に示すとおり、独立行政法人国際協力機構（JICA）から「マダム、これが俺たちのメトロだ！インドで地下鉄整備に挑む女性と僕技術者の奮闘記」が書籍およびオンラインで刊行されているので、会員の皆様には是非読んでいただきたい。

引き続き、対面、オンライン、ハイブリッドでの講演会の開催を模索し、地盤工学会の会員のニーズに応えられるような企画を実施していきたいと考えているので、今後の地盤工学会関東支部の活動にご協力いただきたい。

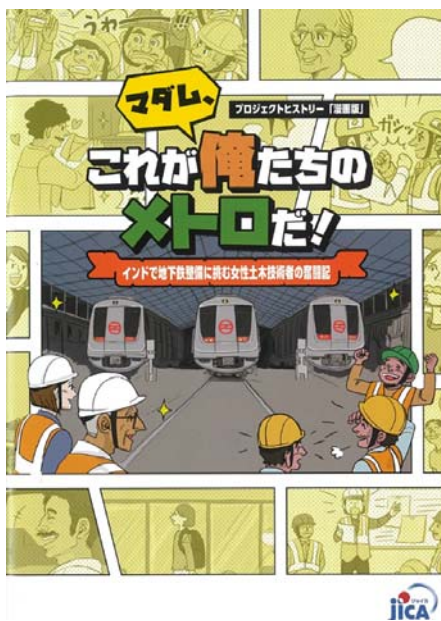


図-1 JICA 発行：漫画版



写真-1 阿部様ご講演の様子



写真-2 講演風景



関東支部 20 周年記念行事「東京湾第二海堡見学会」開催報告

関東支部 支部長 東畑 郁生

2025 年 5 月 13 日、神奈川県横須賀と千葉県富津岬の間の東京湾口に所在する東京湾第二海堡の見学会を実施した。この海堡は明治以来の土木遺産として正垣孝晴防衛大元教授が長年調査と研究をされているもので、当日も案内役を務めていただいた。また施設の管理にあたっている国土交通省関東地方整備局東京湾口航路事務所様をはじめ、関係者の方々のご支援に厚く感謝いたします。

さて、明治の国家にとっては、西洋列強の圧倒的な軍事力は、常に恐怖の種であった。とりわけ恐れていたのは、軍艦が東京湾や大阪湾に侵入して枢要の地を占拠・破壊される可能性であった。それへの対処として沿岸砲台が構想されたが、明治十年ころの大砲の射程が 2 ないし 3 キロと短いため、例えば東京湾口中央を軍艦が進行すると沿岸砲台からは弾が届かない、という問題があった。そこで当時としては破格の埋立人工島の砲台を 3 か所、湾口に設置することとなった。これらをそれぞれ第一、第二、第三海堡と呼び、明治十四年から建設が始まった。第一海堡は富津岬の先端に位置していたので水深も浅く（最大 4.6m）、その建設は比較的容易であった。しかし第二海堡では水深が最大 12m、第三では 39m あり、割栗石の運搬・投入や土砂の投下、締固め等すべて人力による構築は困難であったと想像される。

水面から上には砲台や観測所（写真 1）、宿舎などが設置されたが、軍事施設のことであり、コストより品質重視で良質のコンクリートや煉瓦（写真 2）が使われた。正垣氏はコンクリートのコア試験を近年精力的に行われ、築造後一世紀を経ても材料強度がほとんど劣化していないことを示した。

こうして築かれた海堡ではあったが、間もなく大砲の射程が延びて沿岸砲台だけで防衛は十分となり、以後、海堡は単に存在するだけとなった。そして第一と第二海堡の施設は、敗戦後、連合国軍によって爆破・破壊された。しかし写真のように遺構は残っており、土木遺産としての保全が叫ばれている。ただし第一海堡は浸食による崩壊が著しく、中途半端な保全は文化財としての価値を損なうため、よい対策が施されていない。また第三海堡は関東大震災で被災して廃墟化し、以後は船舶航行に危険となっていた。そして平成 19 年に、ついに撤去された。

参考文献： 正垣孝晴（2023）日本の近代化遺産、技報堂出版。

正垣孝晴、黒田一郎（2023）地盤工学ジャーナル 18(4): 431-441.



写真-1 弾着観測所遺構にて集合写真
(西守氏撮影)



写真-2 掩体壕の跡と対候性に優れた高温焼成
「焼き過ぎ煉瓦」を積んだ壁

「ジオ散歩～国分寺崖線の自然と史跡を巡る～」開催報告

関東支部 会員サービスグループ

担当幹事 内田 翔太（（株）不動テトラ）

高橋 明日香（東京都市大学）

会員サービスグループでは、歩きながら、見て、知って、学ぶ企画「ジオ散歩」を開催しています。第6回となる今回は、去る2025年5月24日に「ジオ散歩～国分寺崖線～」と題し東京都国分寺市の武蔵国分寺跡周辺をフィールドとして開催しました。前日まで天気は予断を許しませんでした但当日は天気にも恵まれ、9名の参加者とグループ幹事5名に加え、国分寺市の史跡ガイドボランティア4名の計18名で国分寺崖線周辺の史跡群や湧水群の見学を行いました。見学ではボランティアより史跡群やそれらの建立された背景、国分寺崖線の成り立ちについて丁寧にご説明いただきました。

今回は、国分寺市より発行されているマップを基に重要な史跡と国分寺崖線近辺を見学できるコースを設定しました。国分寺市には縄文時代から奈良時代にかけての史跡が多数保存されており、縄文時代の史跡として柄鏡型住居跡（柄付きの鏡の形の住居）が保存されています。奈良時代には聖武天皇の命で諸国に国分寺が建立されましたが、武蔵国分寺は其中でも特に大きいものとされています。武蔵国分寺及び国分尼寺の跡には柱が立っていた場所に基礎石が設置されるなど、当時の姿に近い状態で保存、整備されていました。湧水群としては真姿の池湧水群があり、現代でも湧水が多く出ることを知ることができました（大雨の時には石の隙間からも多く水が出るそうです）。武蔵国分寺公園では国分寺崖線の上を歩きながら解説を頂くことができました。コース後半の東山道武蔵路跡は武蔵国と上野国を結んでいた当時道路の遺構であり、これらの貴重な史跡を多数見学することができました。また、武蔵国分寺跡資料館では発掘された土器や金属器の他、周辺の地層写真の展示があり、当時の暮らしや地層についての理解を深めることができました。

散歩を終え、参加者の方々からは、「国分寺の歴史に触れられた」、「奈良時代の歴史の話が面白かった」、「国分寺があった理由を知れたので学びになった」などの声が寄せられました。多くの皆様にご協力をいただくと共に、特に国分寺市の奥山様にはガイドの募集等の準備、当日のガイドの方々には当日の解説等の多大なご協力により充実した内容とすることができました。紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。

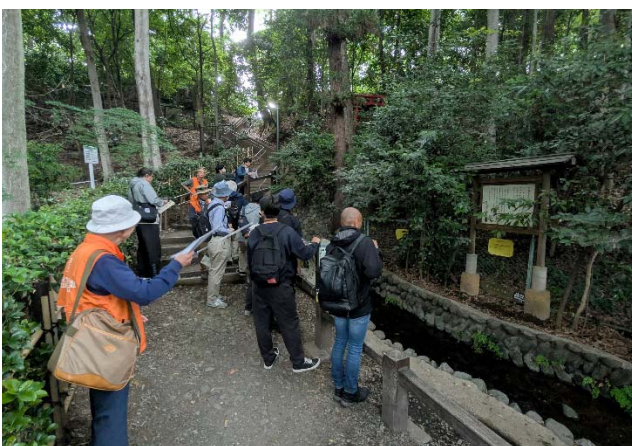


写真-1 湧水群の見学



写真-2 集合写真

地盤工学会事業企画賞受賞報告

関東支部 地盤情報を活用した首都直下型地震
に対する宅地防災検討委員会

委員長 清木 隆文

幹事長 王寺 秀介

清木委員長コメント：

2019年から活動をはじめました「地盤情報を活用した首都直下型地震に対する宅地防災検討委員会」ではコロナ禍の中で、対面での活動ができない中で、液状化対策に繋げる一助とするために、2021年2月に国土交通省から公表されました「リスクコミュニケーションを取るための液状化ハザードマップ作成の手引き」に液状化リスクを認識するために家屋の沈下量や傾斜角等の定量的な値が必要なことが示唆されましたことを背景として、サウンディングのデータを地盤モデルに活用する手法を検討するWGの活動成果をまとめた「スクリーウエイト貫入試験（SWS）による宅地の液状化に対する安全性検討方法（案）」がこの度の表彰の対象となりました。本委員の皆さまの活動の成果が学会で評価されたことを大変喜ばしく思うとともに、この賞の表彰につきまして御礼申し上げます。

王寺幹事長コメント：

この度、「地盤情報を活用した首都直下型地震に対する宅地防災検討委員会」の活動成果である「スクリーウエイト貫入試験（SWS）による宅地の液状化に対する安全性検討方法（案）」に対して、令和6年度事業企画賞をいただきました。当委員会に対してご支援いただきました皆さま方にこの場を借りて御礼申し上げます。

表彰いただいた手引きは、住民や自治体の防災担当者、住宅供給者が戸建て住宅を新築する場合や耐震補強する場合に液状化リスクを検討する際に活用できるものです。多くの方にこの手引きを活用いただき、戸建て住宅の液状化対策の推進に少しでも寄与できれば幸いです。



写真-1 表彰式



写真-2 JGS 会館にて記念撮影

「(一社) 地域国土強靱化研究所 設立 5 周年記念講演会」開催報告

関東支部 茨城県グループ
幹事 伴 夏男(常磐地下工業(株))

2025 年 7 月 16 日、水戸市 茨城県産業会館において標記講演会が開催されました。本講演は、(一社)地域国土強靱化研究所(代表理事:安原 一哉 茨城大学名誉教授)の設立 5 周年記念講演会であり、(公社)地盤工学会関東支部が共催して開催されたものです。オンサイトのみの開催で参加者は 37 名でした。

基調講演には太田 秀樹先生(中央大学研究開発機構教授、金沢大学名誉教授、東京工業大学名誉教授)をお招きし、以下の表題にて講演していただきました。

「チャンと調査をしてみたら、チャンと計算してみたら、思ってもいなかった結果が出てしまった事例」

講演内容は「地盤の破壊関連の事例」として、①破壊予測の基礎となる塑性力学における上下界定理、②斜面崩壊を例としてお話しいただきました。①では地盤強度～すべり破壊の状況についてモール円を用いて解説されましたが、かなり難解なメカニズムをご丁寧にわかり易く説明していただきました。②では海外で撮影された多岐に亘る多くの地層をご紹介され、見えない地層の連続性について「地質屋さん」の重要性を説かれていました。また多くの斜面崩壊現場で実施した、地層の連続性を考慮した破壊シミュレーションの紹介があり、地盤強度把握の重要性をお話しいただきました。

基調講演後は、安原代表理事をコーディネーターとして、太田先生を含めた以下 3 名のパネラーを交えたパネルディスカッションが行われました。

- ・国土交通省関東地方整備局 久慈川緊急治水対策河川事務所 吉池 弘晶 副所長
- ・鹿島建設株式会社 技術研究所 山田 岳峰 上席研究員
- ・株式会社地盤試験所 後藤 政昭 顧問

ディスカッションでは会場からの意見も含めた多くの意見交換があり、締め括りは太田先生の「人生観」もお聞かせいただき、大変意義のある講演会となりました。

最後に、講演会開催にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。



写真-1 太田先生による講演会風景



写真-2 パネルディスカッション風景

「第6回若手技術者を対象とした意見交換セミナー」開催報告

関東支部 企画総務グループ・会員サービスグループ

「若手技術者を対象とした意見交換セミナー」WG

リーダー 田崎 翔(東電設計(株))

副リーダー 本杉 ななね(中央開発(株))

第6回若手技術者を対象とした意見交換セミナーが、令和7年8月29日(金)に、東京大学生産技術研究所駒場リサーチキャンパスにて開催されました。

本セミナーは、「様々な立場の人とつながることが、自身の仕事の質を高め、人としての成長し、経験を積む上で大切である。こうした貴重な経験を、次世代を担う若手技術者にも体験してもらいたい」という先輩技術者の思いより企画され、平成30年に始まり今回で6回目の開催を迎えました。参加者は官・民・学に所属する20代から30代前半の若手技術者です。

【セミナーの概要】

- ・主題 : 地盤工学に関する業界の人脈構築ならびに技術向上
- ・開催日時 : 2025年8月29日(金) 10:00~18:30
- ・参加人数 : 参加者19名、幹事・委員・役員14名、顧問4名、事務局1名の総勢38名

はじめに顧問・幹事・委員と参加者全員の自己紹介を行いました。経歴や業務内容、地盤工学を志したきっかけなどを共有することで、参加者相互の理解が深まりました。続いて、参加者による、各自がこれまで経験してきた業務や研究についての発表が行われました。参加者は官・民・学の様々な所属で、計画、調査、設計、施工、研究など多様な立場から地盤に関わる若手技術者であり、立場の異なる他組織の同世代の技術者がどのような仕事に取り組んでいるのかを知る、貴重な機会となりました。また、参加者同士の質疑応答や顧問の先生方からの助言も活発に行われ、有意義な議論が展開されました。

お昼には、キャンパス内のレストランapeに移動してランチミーティングを実施しました。参加者、顧問先生方、委員・幹事が同じテーブルを囲み、自己紹介の内容を深掘りしながら親睦を深めました。

午後は引き続き参加者の発表を行った後、4グループに分かれて意見交換会を実施しました。互いの発表内容について意見や質問を交わし、理解を深める場となりました。その後の懇親会では、お酒を片手にリラックスした雰囲気の中で、参加者同士や顧問の先生方との交流が深まりました。

一日のプログラムを通じ、セミナーの大きな目的の一つである「人と人のつながり」が築かれたのではないかと思います。参加者の今後の活躍に、このつながりが活かされることを期待しています。

当日の様子を動画にまとめておりますので、ぜひご覧ください。(URL : https://youtu.be/tbG_cZHVrDE)

最後に、ご多忙の中参加いただいた顧問の先生方、運営に尽力いただいた幹事・委員・事務局の皆様、に、厚く御礼申し上げます。



写真-1 グループミーティング



写真-2 集合写真



写真-3 懇親会

2025 年度地盤工学会関東支部賞候補募集要項

公益社団法人 地盤工学会関東支部

地盤工学会関東支部では、「地盤工学会関東支部技術賞」「地盤工学会関東支部功績賞」および「関東支部発表会優秀発表賞」の3つの賞を設け表彰する事により、その業績を讃え、合わせて関東支部活動の活性化を目指しております。このうち、「地盤工学会関東支部技術賞」と「地盤工学会関東支部功績賞」の候補者の募集を行います。これらの賞は、支部会員の地盤工学的観点から優れた工事の業績、技術の開発と実用化、創造性等に優れた学術成果、地盤工学関係技術者の育成や技術力向上、学会のPRなどへの業績や社会的地位向上に貢献を行った活動に対し表彰し、その成果を讃えるものです。以下の募集要項に基づき、奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。なお、「関東支部発表会優秀発表賞」については、関東支部発表会実行委員会の規程に基づき、別途表彰を行います。

受賞対象：関東地域に関係する次のいずれかに該当する業績を対象として、個人（複数可）または団体に授与する。

但し、関東支部あるいは地盤工学会の他支部において表彰を受けた業績については応募することはできない。

関東支部賞の2つ以上の分野に同時に同じ（もしくは同等と判断される）業績で応募することはできない。

地盤工学会関東支部技術賞：

- ① 地盤工学的観点から優れた工事の計画、調査、設計、施工、計測および維持管理等に関する業績等。
- ② 活用性、汎用性に優れた技術の開発および実用化等。
- ③ 創造性、特殊性を有する学術的に優れた研究論文および研究報告等。

地盤工学会関東支部功績賞：

- ① 地盤工学関係技術者の育成および技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績等。
- ② 地盤工学のPRおよび社会的地位向上に貢献をしたと認められる業績等。
- ③ 地盤工学会会員として関東支部の活動に永年従事し、顕著な貢献をしたと認められる業績等。

対象者資格：受賞対象者の資格は、特に設けない。ただし、地盤工学会関東支部功績賞の③については、支部会員（正会員、特別会員）、および支部会員を代表とする機関あるいはグループとする。ここで、支部会員を代表とする機関とは支部会員が代表を務める機関とする。また、特別会員は特別会員である機関の下部機関についても応募対象者とする。なお、特別会員に属する非会員の個人を代表とするグループについては応募対象者とししない。さらに、ここでの会員とは応募時点において会員であり、かつ推薦締切日において引き続き会員であるものとする。

応募の形式：推薦とします。自薦・他薦を問いませんが、推薦者は関東支部の正会員（関東支部表彰委員を除く）、または特別会員であること。ただし、関東支部が主催する委員会活動および行事などは応募の対象外です。

審 査：地盤工学会関東支部の表彰委員会により審査を実施し、受賞者を決定します。必要に応じてヒアリングを実施いたします。

発 表：受賞決定の場合には、直接該当者に通知します。

表 彰：2026年4月の関東支部通常総会において行い、受賞者には賞状・副賞を贈ります。

推 薦 受 付：2025年9月5日（金）より2025年11月21日（金）まで。郵送の場合、当日消印のあるものを有効とします。

提 出 先：封筒の表に、「地盤工学会関東支部賞〇〇〇〇〇賞候補推薦」と記入のうえ、下記へ直接持参するか、あるいは書留で郵送してください。

〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2JGS 会館内

公益社団法人 地盤工学会関東支部

電話 03-3946-8670 E-mail : jgskantou@jiban.or.jp

※ 推薦書は地盤工学会関東支部の website よりダウンロードください。

<https://jibankantou.jp/event/2025kantouaward.html>

（提出資料）

1.推薦書 1 部

2.業績を示す資料（該当する業績ごとに以下に示す資料）10 部

地盤工学会関東支部技術賞①、②：該当業績を記した論文または業績の内容が分かる説明資料やパンフレット

地盤工学会関東支部技術賞③：当該研究論文もしくは研究報告、1 編

地盤工学会関東支部功績賞①、②：業績リスト（出典明示）と代表的資料のコピー3 編

地盤工学会関東支部功績賞③：地盤工学会における活動履歴と業績リスト（出典明示）

【行事報告】

日 程	行事名称	場 所
2025.02.22 ～02.24	国際ワークショップ「GAIA Workshop」	静岡県熱海市
2025.04.22	特別講演会「マダム、これが俺たちのメトロだ」	JGS 会館とオンライン併用
2025.05.13	関東支部 20 周年記念行事「東京湾第二海堡見学会」	東京湾第二海堡
2025.05.14 2025.05.21	共催行事：(一財)土木研究センター・(一社)地域国土強靱化研究所「第 5 回技術者講座」	オンライン
2025.05.24	「ジオ散歩～国分寺崖線の自然と史跡を巡る～」	東京都国分寺市
2025.07.16	「(一社)地域国土強靱化研究所 設立 5 周年記念講演会」	茨城県産業会館
2025.08.29	「第 6 回若手技術者を対象とした意見交換セミナー」	東京大学生産技術研究所 駒場キャンパス
2025.09.25	共催行事：土木学会関東支部群馬会「上信自動車道工事現場見学会」	上信自動車道

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧ください。

【行事予定】

日 程	行事名称	場 所
2025.10.25	「第 18 回ソイルストラクチャーコンテスト」	日本大学理工学部 船橋キャンパス
2025.10.31	特別講演会「(仮)品川駅周辺まちづくり(鉄道改良・基盤整備等)」	JGS 会館とオンライン併用
2025.11.05	後援行事：(一財)災害科学研究所「インフラ分野におけるDXー現在地を巡る 2025ー」講演会	オンライン
2025.11.06	第 22 回地盤工学会関東支部発表会「GeoKano2025」	国立利根川記念 青少年総合センター
2025.11.06	地盤工学会関東支部 20 周年記念企画 ～学生たちが考える地盤の世界！ショート動画コンテスト～表彰式	代々木倶楽部
2025.11.13	群馬県グループ「前橋泥流堆積物を理解して使う～露頭の見学と講演～」	ぐんま男女共同 参画センター
2025.12.04 12.05	共催：国際ジオシンセティックス学会(IGS)日本支部「第 40 回ジオシンセティックスシンポジウム」	室蘭工業大学

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。
登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、
E-mail：kantouevent@jiban.or.jp または FAX：03-3946-8699 までお申し込み下さい。

(崔 瑛：企画総務グループ 幹事)

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部

〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 E-mail：jgskantou@jiban.or.jp

URL: <https://jibankantou.jp>